

平成28年度 学校評価アンケート結果

12月に実施しました学校評価アンケートの結果を保護者アンケートの回答と3年生以上の児童の生活アンケート、及び学校職員の自己評価を比較しながら分析いたしました。学校経営における3本の柱（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を中心に学校経営や地域連携等について、今年度、特に大切にしていたことや課題としたいこと等について、成果と課題の両面から記述してあります。様々なご意見や集計結果を客観的にとらえ、次年度に活かしていきたいと考えています。

<表の見方>

- ・数字は、5点を最高点とした評価得点の平均値と今年度と昨年度の差です
- ・平均が4.5以上を評価が高いと捉え青字で、4.0未満を課題と捉え赤字で記しました。
- ・前年度に比べ上昇した項目を青字で、その中でも0.1ポイント以上上昇したものを青の太字で、昨年度に比べ下降したものを赤字で、その中でも0.1ポイント以上下降したものを赤の太字で記しました。

1 学校教育目標・学校経営に関わって

(1) 学校教育目標の具現に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H28	H27	H28-H27
保護者	・学校は教育目標具現に向けて意識的に取り組んでいる。	4.40	4.28	0.12
児童	・楽しく学校生活を送ることができていますか	4.69	4.61	0.08
	・学校や学級をよくするためにみんなで仲良く協力して何かをやりとげ、うれしかったことはありますか。	4.78	4.68	0.10
職員	・学校教育目標具現に向けて意識的に取り組んでいる	4.45	4.33	0.12

職員、児童、保護者ともに昨年度より数値が向上しており、よりよい学校作りをしよう意識して取り組んでいると感じている。特に子どもはほとんどの児童が楽しく登校し、「出し切る」の合い言葉のもと、やりきった体験ができたと感じていると思われる。本校が今年度最も大切にして取り組んできた「自分を出し切り 笑顔いっぱい学校」に向けて着実に推進できている。

(2) 指導の方法に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H28	H27	H28-H27
保護者	・学校職員は子どもたちに寄り添い、一人一人と関わるなど互いに協力し合い、一丸となって子どもたちを育てようとしている。	4.53	4.46	0.07
児童	・失敗を恐れず挑戦し自分の力を出しきることができましたか。	4.42	4.36	0.06
	・時間を守る、正しく廊下を歩く、トイレのスリッパをそろえる等学校のきまりを守って生活できていますか。	3.93	3.94	-0.01
職員	・児童・保護者に寄り添い、全校一人一人の児童と関わる等、教職員が協力し合い、一丸となって子ども達を育てようとしている。	4.73	4.42	0.31

保護者の中から「先生同士（職場）の雰囲気がいいように見受けられます。それが良いと子どもたちへの接し方も良くなるし伝わるので東白川小はとてよい環境にあると思います」というご意見を頂いた。また、職員自身も評価から全職員が一枚岩になって子どもたちに接しているという自負が見受けられる。一方で、昨年度から引き続き、児童の「きまりを守って生活している」意識がやや低い。全職員が引き続き、一枚岩となって、良いことは褒め、間違ったことに対しては毅然とした態度で指導を徹底させていきたい。

2 確かな学力に関わって

(1) 授業に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H28	H27	H28-H27
保護者	・学校は、分かりやすい授業作りに心がけ、子どもたちに基礎的、基本的な確かな学力を身につけさせようと努力している。	4.42	4.35	0.07
	・子どもは、授業が楽しい、分かりやすいと感じている。	4.19	4.27	-0.08
児童	・自分の考えをしっかりともち、ハッキリと仲間に伝えることができましたか	4.54	4.33	0.21
	・話をしっかりと聞き、頷いたりハンドサインを使ったり反応できましたか	4.47	4.43	0.04
	・ていねいな字で、自分の考えをノートに書いていますか。	4.00	3.88	0.12
	・授業の中でわかったこと、できるようになったことが増えましたか。	4.69	4.69	0
	・授業はわかりやすく、楽しいですか。	4.59	4.39	0.20
職員	・日々の授業を仕組むに当たり、1日の内1時間でも教材研究を行い授業に臨んでいる。	4.36	4.42	-0.06
	・子どもは授業が楽しい、わかりやすいと感じている。	3.82	3.92	-0.10

児童の授業に対する意識は昨年度より更に向上している。児童は授業で自分たちの意見を伝え、分かったこと、できることが増え、分かりやすく楽しいと感じている。こうした意識は今後も大切にしたい。しかし、職員自身は十分とは感じていない。授業に「これでよし」はないはずである。職員自身も納得できる授業を目指し更に研鑽を積んでいきたい。

(2) 読書に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H28	H27	H28-H27
保護者	・子どもは、日常の読書活動を通して本の楽しさを味わっている。	4.14	4.01	0.13
児童	・読書は楽しいですか。自分から本をたくさん読むことができましたか。	4.47	4.49	-0.02
職員	・朝読書や日頃の読書活動を通して本の楽しさを味わわせている	4.09	4.42	-0.33

図書館サミットや図書館だよりによる「家読」の啓発等もあり、保護者の評価は高くなっているが、児童や職員の評価は下がっている。図書館サミットに向けて図書館教育の充実を数年前から進めてきたが、サミット終了後も継続して読書活動の充実を努めていきたい。

(3) 家庭学習に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H28	H27	H28-H27
保護者	・学校と家庭が連携し進んで家庭学習に取り組む習慣を身に付けさせている	4.07	4.04	0.03
児童	・家では宿題や自主学習など、言われなくても自分から取り組んでいますか。	4.17	4.21	-0.04
職員	・家庭と連携し、進んで家庭学習に取り組む習慣を身に付けさせている。	3.91	4.25	-0.34

全体的に高い評価とはいえませんが昨年度に比べて保護者や児童の評価も変わっていない。確かな学力の定着のため家庭学習の充実は不可欠であるが、本校では満足できる状態ではない。職員は危機感を感じていることが評価から伝わる。児童のアンケートでも家庭学習時間は昨年度から減少している。家庭学習の充実が本校の課題の一つでもある。

3 豊かな心に関わって

(1) 笑顔になれる言葉がけに関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H28	H27	H28-H27
保護者	・学校は、子どもが笑顔になれるように言葉がけや働きかけなど、指導の工夫に努めている。	4.40	4.24	0.16
児童	・自分から進んであいさつをしたり、ありがとうの言葉が言えたりしましたか（先生・友だち・家族・地域の人）	4.73	4.68	0.05
職員	・笑顔になれる言葉を広げるように指導の工夫に努めている。	4.18	4.58	-0.40

児童会でも「あいさつ」については積極的に取り組んでいる。児童はあいさつや感謝の言葉についてはできていると感じているし、保護者にも伝わっている。職員の意識が下がっているので、職員は子どもにとって最も身近な環境であるとの意識を持ち、率先して笑顔になれる言葉がけや丁寧な言葉遣い、また、その値打ちについて語るように心がけていく。

(2) 正しい言葉遣い・礼儀正しさに関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H28	H27	H28-H27
保護者	・学校は、正しい言葉づかいができるようになることや礼儀正しくふるまえるようになることにこだわった指導をしている。	3.85	3.85	0
児童	・呼び捨てはせず、友だちとていねいな言葉や温かい言葉でやりとりができましたか。	4.31	4.32	-0.01
	・いじめはどんな理由があっても、やってはいけないことだと思いますか。	4.93	4.90	0.03
職員	・礼儀正しさにこだわるとともに、正しい言葉遣いができるように教師も子どももこだわっている。	3.55	4.00	-0.45

児童の意識と保護者・職員の意識の差が気になる。正しい言葉遣いや礼儀正しさは大人が教えるものである。児童はよいと感じていても大人から見ると気になる点も多いようである。人権教育の観点から引き続き継続的な指導をしていき、名前を呼び捨てしない指導や正しい言葉遣いを全職員が一丸となって行うことにより、改善していきたい。課題の一つと捉えたい。

4 健やかな体に関わって

(1) 遊びを創造する力に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H28	H27	H28-H27
保護者	・学校は、遊びの楽しさや友だちと関わって遊ぶことの楽しさを味わえるように、遊びを創造する力をつけるように努めている。	4.33	4.34	-0.01
児童	・晴れた休み時間には外へ行き、友だちと楽しく元気いっぱいに遊んだり運動に取り組んだりできましたか。	4.32	4.43	-0.11
職員	・遊びの楽しさや友達と関わって遊ぶことの楽しさを味わえるように、遊びを創造する力をつけるように努めている。	4.09	4.17	-0.08

評価が大きく下がったわけではないが、今年度からそうじなしの日を1日増やし、ロング昼休みが増えているので、児童の評価は少し意外であった。児童の意見に「全校遊び」を増やしてほしいというのが少なくなった。遊ぶ時間が増えても遊び方の工夫が見られなかったともとれる。担任は実態をよく把握し、外遊びを学級集団作りの一つとして大切に、仲間関係を醸成する場として位置づけた指導を心がけていきたいし、児童会活動の一環としてロング昼休みの使い方を再考したい。

(2) 基本的生活習慣に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H28	H27	H28-H27
保護者	・学校は、子どもに対して生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯・排便等）の重要性が認識できるように努めている。	4.03	4.16	-0.13
児童	・一日を元気に過ごすために、早ね・早起き・朝ご飯、トイレができましたか	4.07	4.28	-0.21
	・テレビやゲームは時間を決めてやっていますか。	3.44	4.04	-0.60
職員	・児童に対して生活習慣の重要性が認識できるよう指導に努めている。	3.82	4.42	-0.60

全体を通して、一番評価の低かった項目である。「情報モラル」に関する教育は近年その充実がさかんに言われているし、本校でも今年度は懇談会でも取り上げてきた。しかし、その実態から成果があがっていないととることができる。「情報モラル」教育の充実は本校の喫緊の課題と捉え具体的な対応策を考えていきたい。併せて、基本的な生活習慣の定着についても家庭との連携をさらに強めて推進していく必要がある。

5 その他(地域との連携、個別支援など)

(1) 心配な児童に対する対応に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H28	H27	H28-H27
保護者	・学校は、健康面（体調不良など）で心配な児童、生活面で心配な児童、または継続的にケアが必要と思われる児童に対して保護者と連絡を取り、綿密な連携の中で指導を行うよう努めている。	4.41	4.33	0.08
	・困ったことや悩み事があったとき、学校は相談しやすく親身になって聞いてくれる。	4.21	4.28	-0.07
児童	・相談や悩みなどがあるときは、先生や友だち、親に相談することができていますか。	4.27	4.36	-0.09
	・学校の先生は困ったときに相談すると、しっかりと聞いてすぐに助けてくれますか。	4.66	4.69	-0.03
	・学校の先生はがんばったことや良いことはほめて、まちがったことはしっかりと叱ってくれますか。	4.78	4.81	-0.03
職員	・問題行動や心配な言動、体調不良等の児童、または継続的にケアが必要と思われる児童保護者と連絡を取り、保護者との綿密な連携の元指導を行うよう努めた。	4.09	4.58	-0.49

微減しているものの児童の職員に対する信頼感は引き続き高い。継続できるようにしたい。本校にはいわゆる不登校の児童はいないが、全国的に見れば近年確実に増加している。職員の評価の低さは危機感の表れであるにとりたい。今年度、これまでに（1/26現在）80人全員が登校できた日が39日あった。こうした状況が継続ができるよう家庭とも連携し職員が一丸となって取り組みたい。

(2) 地域の人材活用に関わって

	アンケート質問の文面	平均評価値		
		H28	H27	H28-H27
保護者	・学校は、生活科・総合的な学習の時間（ふるさと学習）等で地域の人材（学習支援者・ゲストティーチャー）を効果的に活用し、授業を仕組むよう努めている。	4.37	4.30	0.07
職員	・生活科・総合的な学習の時間やふるさと活動等での地域の人材（学習活動支援者・ゲストティーチャー）を効果的に活用し、授業を仕組むよう努めた。	4.09	4.58	-0.49

本校は総合的な学習の時間等で積極的に地域の人材を活用をしている。そのことについては保護者も実感している。職員の評価が低いのは新たな人材の開発が少なかったことに対するものであると思われる。新たな人材の開発も含め今後も地域の人材を意識的に活用し、ふるさとに根ざした教育を推進していきたい。

<総括>

- 本校は多くの児童が学校を楽しんでいると感じ、授業に対して充実感をもっている。保護者も同様に感じており、この傾向は昨年度より更に高まっている。これは職員が一枚岩になって取り組んできた成果である。特に授業の質は着実に向上している。
- 家庭学習や情報モラル教育、基本的な生活習慣の充実がより一層求められている。学校内だけの取り組みでは成果が上がり辛いものである。学校・家庭・地域がより密に連携して取り組んでいかなければならない。